

延伸で広がる 北大阪エリアの 新たな魅力

MINTETSU
REPORT



北大阪急行電鉄株式会社

2024年3月、北大阪急行電鉄の南北線が箕面萱野駅まで延伸し、大阪府北部の長らく鉄道がなかったエリアに新しい風が吹いた。「箕面船場阪大前駅」と「箕面萱野駅」という2つの新駅誕生によって、周辺エリアはどう変わっていくのか。

取材・文●清水友樹 撮影●加藤有紀

大阪府の北部を走る北大阪急行電鉄（北急）南北線は、大阪市高速電気軌道（Osaka Metro）御堂筋線との相互直通運転により、江坂駅から御堂筋線の新大阪・梅田・なんば・天王寺駅といった主要駅を通り、なかもず駅まで乗り入れる路線だ。

北大阪急行は、長らく江坂駅～千里中央駅間を結ぶ5.9 kmの路線だったが、2024年3月23日、千里中央駅から北部へさらに延伸し、江坂駅～箕面萱野駅を結ぶ8.4 kmの路線となった。

また、この延伸により「箕面船場阪大前駅」と「箕面萱野駅」という2つの新駅が設置され、箕面市内へのアクセスが格段にしやすくなった。

2つの新駅がある箕面市は、大阪府北部に位置し、自然豊かな環境と発展した住宅地を併せ持つエリアだ。10キロ圏に大阪空港、新大阪駅、高速道路（名神高速、中国道、近畿道）があり、自動車での交通利便性はもとと高い。しかし、成熟した市街地でありながらも公共交通の利便性が低いという課題を抱えていた。

また箕面市には、紅葉の名所「明治の森箕面国定公園（以下、箕面公園）」や、その公園内にあり「日本の滝100選」「日本百景」に選定された、落差33 mの「箕面大滝」など、豊かな自然美が四季折々の表情を見せる観光スポットが数多くある。これらのスポッ

2024年春、延伸と新駅開業

悲願の延伸計画実現まで

すでに整備されていたものの、鉄道が通っていない“鉄道空白地帯”であり、延伸は地元・箕面市の50年来の悲願でもありました」と語るのは、延伸事業に約10年関わってきた北大阪急行電鉄株式会社鉄道事業部施設課の木村哲也調査役だ。「都心部から離れた郊外の路線ですので、採算面には課題がありました。しかし、箕面市の延伸に對する熱意もあって、計画を実現することができました」（同調査役）。

生活利便性も向上

始。計画は次第に現実味を帯びてきた。しかし、1990年代に入るとバブル崩壊後の不況もあり、全国的に鉄道整備計画が停滞した。この計画も例外ではなく、具体的な進展を見ないまま時が過ぎた。

しかし2003年10月、現在の箕面萱野駅周辺の「箕面新都心」（かやの中央）がまちびらきをする。大規模商業施設がオープンし、多くの人が訪れるようになる。延伸待望の声は再び高まりを見せる。そして、2015年には国土交通省が正式に事業を許可および特許。これを受け、2017年に着工に至ることとなった。最大のネックは、延伸事業にかかる巨額の費用だったが、国、大阪府、箕面市、北急が緊密な協力をしながら、事業費約874億円を手当てすることができた。

2003年にまちびらきした「箕面新都心」のほか、延伸開業前の2021年4月には、大阪大学外国語学部が新駅の箕面船場阪大前駅の駅前に移転してきたほか、箕面市立文化芸能劇場、箕面市立船場図書館などの公共施設も駅前に建設された。

延伸エリアは若い世代やファミリー層にとって「住みやすいエリア」「住みたいエリア」として注目されるようになってきている。

同社鉄道事業部の山内真紀業務課長は、延伸エリアについて「大阪市中心部へのアクセスもよく、緑の多い魅力的なまちです。延伸により、子育て世代や転勤族の方にもますます選ばれるようになっていきます」と語る。

が最も高かったのは箕面船場阪大前駅
近くの箕面市船場西1丁目20番9（上
昇率8・7％）、2位も箕面萱野駅近
くの箕面市今宮4丁目1番12（同8・
7％）だった。

子育て世代を惹きつける大きな要因は、新大阪駅からわずか20分弱という立地の良さだけではない。

箕面市は「子育てしやすいさ日本」を掲げ、高校卒業までの医療費助成をはじめとする手厚い子育て支援を行うなど、全国トップクラスの子育て支援を行っており、これも沿線の魅力度向上に一役買っている。

実際、箕面市は府内で最も人口増加率の高い自治体の一つで、2008年まで横ばい傾向だった人口（約12万7000人）は、2024年12月末時点で13万9474人まで増加している。延伸効果もあり、人口は今後も増加する見込みだ。

さらに、「延伸効果で箕面萱野駅から出ているバスで箕面市内の観光地を訪れる外国人旅行者も増えていきます」と山内課長が言うように、インバウンド需要の増加も期待できそうです。

高齢者も住みやすいまちへ

箕面市は、鉄道空白地帯だった過去や地理的な特性が影響して自動車分担率が高い。これを下げるのは箕面市の大きな課題である。

箕面萱野

箕面船場阪大前

延伸区間

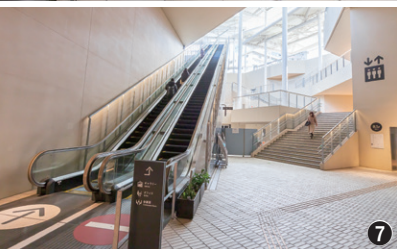
千里中央

桃山台

緑地公園

江坂

箕面市北部エリアの緑豊かな山々を望む箕面萱野駅のホーム。



① 北大阪急行電鉄の本社ビルがある緑地公園駅の付近。木々に囲まれた落ち着いた散歩コースが続く。② 左右に国道が通る南北線。集電は「第三軌条」からのため架線が無い。③ 会場線の分岐部。千里中央駅のホーム南端までは約500メートルに位置する。／提供：北大阪急行電鉄 ④⑤ 「繊維のまち」「新しいまち」をテーマに各所に意匠が凝らされた箕面船場阪大前駅のホームと改札。⑥ 延伸線開業に合わせ、約30年ぶりにデザイン変更した駅名看板。車両に使用している色調をベースにするとともに、御堂筋線の赤色をアクセントに取り入れて「北急らしさ」を表現している。⑦ 改札を出た先には、エスカレーターがある開放的な空間が続く。

ここで北急の歴史を振り返ってみたい。1970年2月に運輸営業を始めた北急は、大阪市営地下鉄（現・Osaka Metro）による御堂筋線の北部延伸計画の一環として建設された。

開業当時、北急には現在も営業を続ける「南北線」のほかに、現在の桃山台駅の北から分岐し、万国博中央口駅

万博と北急の歴史

題に上りますが免許返納を促すのなら、鉄道やバスといった公共交通の充実がなければ、高齢者は生活に必要な買い物や通院ができなくなります。箕面市でも自動車分担率を下げることは長年の課題ですが、延伸はこの課題解決の切り札として期待されています」（木村調査役）

市内を走る国道423号（新御堂筋）、国道171号の慢性的な渋滞、多くの観光客が自家用車で訪れることに起因する箕面公園周辺の渋滞や駐車場不足なども課題になっているが、これも自動車分担率が低下することで解決につながる。また、箕面市が推進する「コンパクトシティ構想」も、自動車分担率を下げる取り組みと連動している。無秩序な都市拡大を抑制し、効率的な都市設計を目指すなかで、鉄道駅を拠点としたバスネットワークを構築し、公共交通を中心とした都市構造にすれば、限られた土地の効率的な活用が可能になる。

「桃山台駅を過ぎてトンネルに入ると、途中でトンネルが二つに分かれるところがあります。そこは、かつての会場線の分岐部なんですよ」

緑豊かな山々を望む新駅

万博の成功を支えた。万博が終了し役目を終えた会場線は、閉会翌日の9月14日に廃止されたが、それから半世紀以上の時を経て、2025年4月13日に開幕する「大阪・関西万博」を前に南北線が延伸した。北急は来る大阪・関西万博に向け、旧会場線のトンネルを報道関係者に公開するなど、万博の機運を高める活動を行ってきたが、こうして振り返ると、実に万博に縁深い路線だとわかる。

までを結ぶ「会場線」（東西線、万博線とも呼ばれた）があった。

会場線は、1970年3月15日から9月13日までの183日間の日程で開催された日本万国博覧会（通称・大阪万博）への輸送のための期間限定路線で、世界中から訪れた人を会場に運び、万博の成功を支えた。万博が終了し役目を終えた会場線は、閉会翌日の9月14日に廃止されたが、それから半世紀以上の時を経て、2025年4月13日に開幕する「大阪・関西万博」を前に南北線が延伸した。北急は来る大阪・関西万博に向け、旧会場線のトンネルを報道関係者に公開するなど、万博の機運を高める活動を行ってきたが、こうして振り返ると、実に万博に縁深い路線だとわかる。

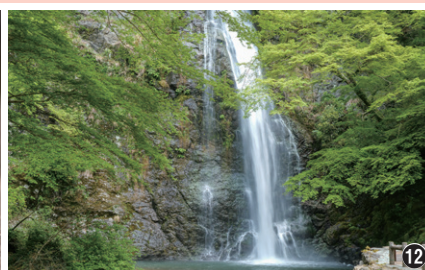


鉄道事業部
施設課 調査役

木村 哲也
Tetsuya KIMURA



⑧箕面萱野駅のプラットフォームはデザイン性の高い膜屋根が採用され、温かみのある雰囲気。⑨駅前のロータリー。⑩ロータリーに隣接し、イベントなども行われる箕面萱野駅前の『箕面市立かやの広場』。⑪『みのおキューズモール』から箕面萱野駅のホーム階を見た様子。⑫箕面萱野駅からバスで向かうことができる観光名所・箕面大滝。⑬『みのおキューズモール』で、お土産を物色。箕面市で醸造されているという『箕面ビール』を購入した。⑭始発駅の江坂駅に戻る。この駅では北急とOsaka Metroの乗務員交代が行われる。



取材中、そう木村調査役が教えてくれたので、本社ビルを出た後、ビルに隣接する緑地公園駅から南北線の先頭車両に乗り込んだ。

線路は新御堂筋（国道423号）沿いに北へと進んでいく。隣の桃山台駅を過ぎてしばらくするとトンネルに入る。車窓の外が暗くなり、車内には線路の音がリズムカルに響く。進行方向の右に目を凝らすと、先ほど話に聞いた会場線の分岐部が見えてきた。すでに線路は取り除かれていたが、この先にあった大阪万博の会場へと続く会場線があったことに思い馳せ、一瞬のノスタルジーに浸ることができた。

分岐部を通過し、車両は延伸以前の終点である千里中央駅に滑りこむ。千里中央駅を出発すると、ほどなくして箕面船場阪大前駅に到着。ここで途中下車した。

改札を出て、長いエスカレーターで地上まで上がると、目の前に箕面市立文化芸術劇場のモダンな建築が立っている。その向かいでは高層マンションの建設工事が進められていた。美しく整備された歩行者デッキを2分ほど歩くと、大阪大学箕面キャンパスが現れ学生たちで賑わっている。

再び南北線に乗り、終点の箕面萱野駅を目指す。車両が箕面船場阪大前駅を発車しトンネルを抜けると、急に明るくなった。車窓の先の美しい山々に思わず「あつ」と心の中で声を上げると、ほどなくして到着した。ホームに



鉄道事業部 業務課長
山内 真紀
Maki YAMAUCHI

降り立つと大阪市中心部にはない解放感が心地良い。

ホーム階（2F）から1Fに下りると、駅前には広々としたロータリーがあり、周辺には整備された歩道や植栽が配置されている。人工芝が敷かれた広場では、青空の下で子どもたちが走り回り、大人たちはベンチに座って談笑して寛いでいる。「ここに住みたい」と考える人が増えているのも納得だ。

駅を出てみると、街路樹が並ぶ道が続く。商業施設と住宅地が調和した街並みから「新しさ」と「住みやすさ」を肌で感じる事ができた。

駅に戻り、駅直結の複合型ショッピングセンター『みのおキューズモール』へ。ここは地域住民だけでなく、観光客も訪れる賑わいの場となっていた。近代的で便利な生活環境のすぐそばに豊かな自然があるのは、この駅の大きな魅力だろう。

万博を訪れたなら、北急に乗り、箕面市にも足を延ばし、この心地良い空気を感じてみてはいかがだろうか。